

医療トピックス

いま、世界の移植は(6) - 高齢者ミニ移植は大丈夫？

東区・郡元支部

(医療法人 幸良会 シーピーシークリニック) 武元 良整

高齢者へのミニ移植施行例数が増えてきています(文献1)。50歳以上の移植成績をミニ移植と従来の移植方法とで比較した最新の報告があります(文献2)。その結果は大丈夫でしょうか？

国内の報告(文献3)

血液領域では50歳以上の造血器悪性腫瘍症例はすでに高齢者と考えています。その年齢層に造血細胞移植を考えるとというのは、医学的には許されない非常識的な事でした。これが可能になったのは図1に示すように2000年頃から開始されたミニ移植という移植方法のためです(図1、アメリカ血液学会報告資料)。1996年には世界でのミニ移植報告例はわずか17例でした。2000年には1,500例を超え、2004年現在、国内だけでも500例以上と推定されています。

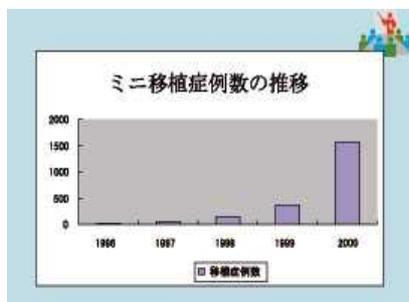


図1 ASH学会抄録からみたデータ

厚労省研究班(骨髄非破壊的前処置を用いた同種造血幹細胞移植に関する研究---骨髄非破壊的前処置法の有用性ならびに急性GVHD予防方法に関する検討)がミニ移植の安全性と有効性についての医師主導型研究を行っています。2005年2月の中間報告(文献3)によると移植後180日での生存率は90%、同じく無病生存率は80%で本治療法が安全に運用可能であることが確認されています。

なお、がんの発生頻度は統計によると図2、3のように50歳から増加傾向にあります。胃がんと比較して悪性リンパ腫も多発性骨髄腫も低い頻度です(図2)。たとえば、80歳以上では胃がんが約500名/10万人あたりですが、悪性リンパ腫は約50名/10万人あたりと10分の1です。今までは血液疾患のみが造血細胞移植の適応と考えられていました。しかし、将来的には胃がんなど固形がんも移植の対象と考えられるとの報告もあります。

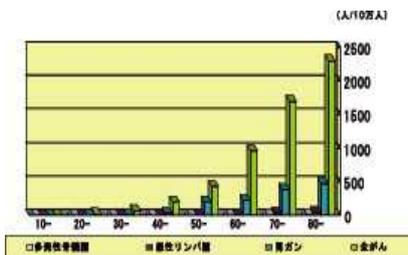


図2 がん統計2001年

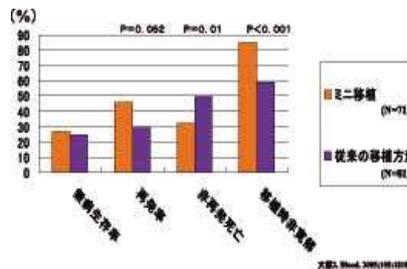


図3 ミニ移植と従来の移植方法比較(50歳以上)

Alyeaらの報告(文献2)

年齢の中央値56歳の45名にミニ移植したところ、53%の生存率が確認されています(文献1)。

一方、Alyeaらの報告は50歳以上、152例の後方視的観察です。非寛解例への移植がミニ移植71例中の85%、従来の移植81例では59%です。このリスク背景からミニ移植の治療成績の方が良くない事が予想されます。しかし、図3の比較で明らかになった事は図3の左端の無病生存率に差がなく、再発率は高くとも、非再発死亡率が低く、ミニ移植は従来の移植と同等に有用と考えられます。

ご質問は下記まで

E-mail: takemoto@cpc-jp.com

過去の連載は以下のHPでご覧頂けます。

HP:<http://www.celltherapytransplantation.com>

<http://www.minc.ne.jp/kasii/>

文 献

1. McSweeney PA et al. Hematopoietic cell transplantation in older patients with hematologic malignancies. *Blood* 2001; 97: 3390-3400.
2. Alyea et al. Comparative outcome of nonmyeloablative and myeloablative allogeneic hematopoietic cell transplantation for patients older than 50 years of age. *Blood*. 2005; 105: 1810-1814.
3. ミニ移植の臨床試験(HE0101)進捗状況。原田班・谷口班・高上班合同会議資料。2005年2月3、4日福岡。